

埼玉県内主要産業動向調査(産業天気図) - 2016年1~3月期 -

調査対象：県内企業 568 社

調査方法：アンケート方式 (2月上旬 郵送回収)

回答企業：260 社(回答率 45.8%)

業種別内訳：製造業 150 社 非製造業 110 社

概況

今回の産業天気図は、「曇り」中心には変わりはないが、国内景気の停滞感や中国等の新興国経済の減速の影響もあり「晴れ一部曇り」が減り「曇り一部雨」が広がる空模様となっている。

製造業では、紙加工品等は農産物用の段ボール箱需要が天候不順の影響により減少、化学・プラスチック・ゴム製品は家電製品や日用雑貨等の需要が低調となり各々「曇り一部雨」へ、飲・食料品は年末・年始需要が終わり売上が減少し「曇り」へ後退している。一方、輸送用機械では北米市場等が堅調であることに加え、乗用車部品は国内で年度末需要が上向き、二輪車部品はアジアで伸張り「曇り」へ持ち直している。

非製造業では、卸売は青果物の価格安、建設資材の需要の停滞から、不動産は国内景気の停滞感を背景に事業用地や賃貸倉庫需要が弱まり、各々「曇り一部雨」へ後退している。

先行きについては、「晴れ一部曇り」から「曇り」へ後退する一方、「曇り一部雨」から「曇り」へ持ち直すものもあり、「曇り」空がさらに広がる見通しである。

製造業では、一般機械器具は中国等の新興国経済減速の影響から「曇り一部雨」へ後退する。一方、電子部品・デバイスではスマートフォン用部品は新製品投入に伴い海外需要の改善や国内の買替需要が寄与し、自動車の電装品等の需要が堅調なことから「曇り」へ持ち直す見通しである。

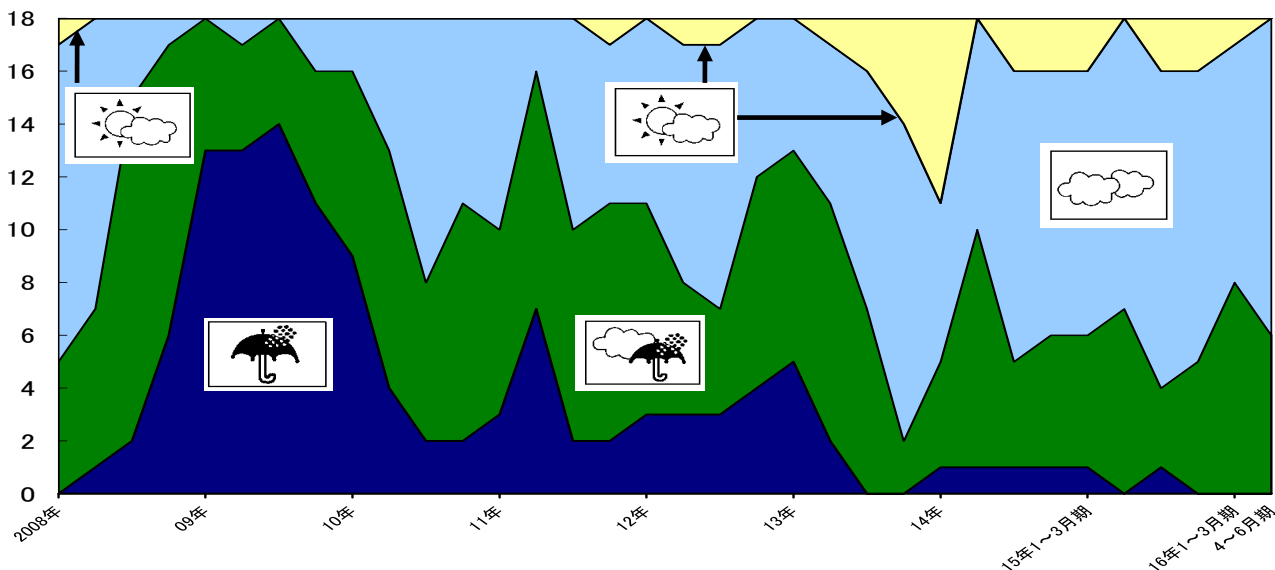
非製造業では、建設は公共工事の受注一巡や民間の設備投資の抑制から「曇り」へ後退する。一方、卸売や不動産は消費増税前の駆け込み需要が寄与し「曇り」へ各々持ち直す見通しである。

天気図別の業種数

区分	晴	晴れ一部曇り	曇り	曇り一部雨	雨
2015年 10~12月期(前回)	0	2	11	5	0
2016年 1~3月期(今回)	0	1	9	8	0
2016年 4~6月期(先行き)	0	0	12	6	0

(業種数)

産業天気図



(注) 天気マークと BSI 基準の目安

天気マーク	晴	晴れ一部曇り	曇り	曇り一部雨	雨
BSI	100 以下~50 以上	50 未満~20 以上	20 未満~-20 超	-20 以下~-50 超	-50 以下~-100 以上